

FEATURES

平成14年度 明治大学校友会国立支部定期総会開催



設立4年目を迎えた国立支部定期総会は、6月16日（日）午後2時より、商工会館において開催されました。第1部総会は芸術家としても著名な本部伊藤紫虹副会長、小林立川支

部長のご臨席を頂き、冒頭故沢登晴雄元支部長に黙祷を捧げたあと支部長挨拶、伊藤副会長祝辞に続き、議案審議に入り、各議案の全てが満場一致で可決されました。

総会にあたり



国立支部長
岩崎 岩夫

私共校友の集りは、国立地方支部時代を含め20年余りの歴史を持っており、活潑に活動を続けております。途中、本部の規約が変り、会員皆様のご支援を得て、新生支部になりますから今回が4回目の総会です。

明治大学創立120周年記念募金の支部としての協力は、会員皆様の深いご理解とご協力をいただきまして合計752,000円となりました。本当に有難うございました。また、全国校友石川大会への参加協力等、活発な校友活動を行って参りました。

本年の全国校友大会は大阪で10月27日に行われます。学窓を離れ、全国で活躍されている旧友に会える良いチャンスです。一人でも多く参加されることを期待いたします。

一方、支部内部での活動も活潑で、その都度連絡しておりますが、ご家族共々参加いただき大変好評をいただいております。今後共、会員各位には是非積極的にご参加いただきたいと思います。また、皆さんの忌憚のないご意見、ご要望等どんどんお寄せ下さい。一層明るく楽しい支部の運営に努めて参りたいと思います。



本部副会長
伊藤 紫虹氏
(リバティタワーモチーフ設計者)

●創立120周年記念事業募金の協力に謝辞が述べられ、ロースクール、新学部、新学科の大学構想等トップ大学づくりに励んでいる等のお話しがありました。



国立市役所産業振興課課長
平林 正史氏

●「国立のまちづくりの歴史」と題して、貴重な資料を基に詳しい“まちづくり”的お話しがあり、私達の住むまちの歴史に新たな認識をいただきました。

さらなる親睦が深まった懇親会

小林立川支部長の乾杯でスタートした恒例の手づくり懇親会は、楽しく親しい会員同志の会話はあちこちで笑いの輪となり、さらなる親睦が深まる会となり締め括りは土屋幹事の音頭による校歌斉唱、夏井副支部長の音頭による万歳三唱を唱和して散会となった。



会員だより

Vol.1

私が農業を始めたきっかけは、明大校友会国立地方支部が10年前、当時支部長であった沢登先輩の郷里である山梨県牧丘町に葡萄園を借り、生産者の協力を得て葡萄作りを始めた事である。

この牧丘町の葡萄作りが中心となって、安全な有機野菜栽培を主体とする生産者と、都市の消費者との交流会に発展していく。現在の中間山地の牧丘町を活気づけるお手伝いとなった様に思う。

その運動の中で、自分自身も安全な野菜を作れないかと思い、国立支部の会員である三田氏の畑を借りて野菜作りを始めた。程なくその畑が区画整理の対象となった為そこを断念し、家庭菜園を管理する「根っこ会」に入会し、しばらくその運営の手伝いをしていた。

平成12年、国立市が農業塾を開校する事になり、その指導を

農業体験学校開校までの道程

副支部長 窪田 卓郎
【昭和27年 政経卒】



「根っこ会」が受託したのを機に、東会長と共に2年間農業塾の運営に参画した。

平成14年5月、東会長と友達2名と共に念願であった農業体験学校「畦道」を開校し、現在15家族の市民と初歩から野菜作りに挑戦している毎日である。



INFORMATION



「好評のサントリーと郷土の森 見学会」

本年最初の行事は、7月20日夏本番の暑い一日でした。作りたてのノド越し最高の生ビール、モルツグラスのお土産、郷土の森では久しぶりにお会いした後輩の元気な姿、田中家の冷やっとしたゴマだれそば等々楽しい一日でした。次回は9月、「隅田川と浅草散策」を予定しています。お楽しみに。